



こども政策担当、共生社会担当、女性活躍担当、孤独・孤立対策担当、内閣府特命担当大臣（少子化対策 男女共同参画）の小倉まさのぶ大臣が湯河原町にお越しになり、こども・若者政策について地元の牧島かれん衆議院議員と共に意見交換させて頂きました。前編では地方創生やこども・子育てについて意見交換をさせて頂きました。後編は医療・介護・福祉・防災減災についてです。

医療・介護 福祉・防災減災のこと！ 新春対談



衆議院議員

牧島かれん



湯河原町長

富田幸宏



こども政策担当大臣

小倉まさのぶ

▶医療・介護・福祉▶▶▶▶▶

富田：小倉大臣は4月1日のこども家庭庁設立に向けてまさに奔走されているところだと思いますが、ご担当はかなり多岐にわたっていますね。共生社会のご担当でもあり、少子化と、高齢化の両方の対応にあたるという重責を担われている大臣、という印象です。岸田総理の期待の高さを感じます。

小倉：コロナ禍で孤独孤立の問題も浮き彫りになりました。学校が休校になったり行事が減ってしまったりしたことで、友人と過ごす時間が減ってしまったこども達もいましたし、実家を出て離れて暮らしている家族となかなか会うことが出来なくなってしまった高齢者もいました。「あなたはひとりじゃない」というメッセージと共に、実態調査の実施、重点計画の策定、相談窓口の設置やNPOへの支援など、社会的不安に寄り添う施策を政府一体となって届けて参ります。

富田：コロナ禍で痛感したのは「福祉と防災の拠点を作っておいてよかった」ということでした。JCHO(ジェイコー)湯河原病院が移転され、その隣に町民体育館があることから、ここにワクチン集団接種会場を設置することができました。

かれん：ワクチン接種の様子も視察させて頂きましたが、医療関係者との連携も取られていて、スムーズに接種が進められていたのが印象的でした。JCHOは独立行政

法人地域医療機能推進機構ですが、しばしば総理の隣で記者会見に応じて来られた尾身茂先生が理事長を務めていたという方がイメージがわかりやすいかもしれません。独立行政法人としてのJCHOは新型コロナへの対応ではその寄与が認められ、最大評価の「S評価」を受けています。

富田：集団接種を体育館で行ったことで60代から80代のワクチン初回接種率は90%を超えました。また、介護という面では、昨年9月に町として「医療・介護のサービスガイド＝高齢者福祉サービスガイド＝」を作成しました。「生活全般に手伝いが必要」な方もいれば「大体の身の回りの事は自分で出来る」方もいます。フローチャートをたどっていけば、訪問看護なのか、通所介護なのか、など使える介護保険についても知ることができます。地域包括支援センターと相談しながら必要なサービスを利用できるようにすることは高齢社会における町の責任だと考えています。医療介護福祉サービスについてご案内していますので、高齢者の皆さんだけでなく、ご家族にも見て頂ければと思います。

かれん：介護予防という意味では、町長が進められたパークゴルフ場の改修も意味があるかもしれませんね。身体を動かすことは転倒予防にもなりますし、仲間と外に出かける機会を持つことは認知症予防、健康寿命延伸にも繋がるのではないのでしょうか。

富田：この町に暮らすひとりひとりが、こどもであっても高齢者であっても、障害の有無に関わらずいきいきと日々送れることが目標です。小倉大臣が進めている「男女共同参画社会」「女性活躍推進社会」を湯河原でも更に強力に推進していきたいと考えています。

小倉：女性や多様な人材が活躍することで社会全体の幸福度が上がり、経済活動の創造性も増す、というのはこれまでの研究でも分かっています。男女がともに主体的に地域活動やボランティア活動に参画することで地域コミュニティも強くなります。

かれん：湯河原町商工会女性部の皆さんが駅のホームの椅子に座布団を取り付けて下さっていますが、きめ細やかさやおもてなしを表現した素敵な活動だと思っています。国土交通大臣表彰はじめ沢山の賞を受賞しています。ところで、町長はお料理も得意と聞いたことがあるのですが…

富田：得意と言えるほどかは分かりませんが（笑）、固定的な役割分担意識にとらわれず男女が様々な活動ができるようにするのは大事です。旅館も含めて女性の活躍なくして観光業、サービス業の発展はないと考えています。

小倉：「女性の経済的自立」は岸田内閣の主要政策である「新しい資本主義」の中核でもあります。女性の正規雇用促進、男女間の賃金格差解消や女性のデジタル人材・起業家育成など、G7大臣会合でも議論を深めるべく準備を進めています。

▶防災・減災▶▶▶▶▶

かれん：町民の皆さんの中には、災害への備え、対応についての関心も高いと思います。

富田：東日本大震災では湯河原で津波に対する不安、計画停電、観光地への経済的影響がありました。海拔表示版の整備は直ちに行いました。町長として「即座に対応する」ことと、様々な意見を伺いながら「最終判断をする」責任を実感しました。町民の命と財産を守るのが町長の務めだと思っています。平成30年には親善都市・広島県三原市が豪雨被害に見舞われました。町からも救援物資を送り、町の職員4名を1チームとして継続派遣してきました。湯河原の万が一の時にもきっと助け合いの精神が発揮されるだろうと信じています。「共助」が実現できているのも、日頃からの親善都市との友好、交流の賜物でしょう。

小倉：2年前には熱海市伊豆山土石流災害も甚大な被害が出ましたね。湯河原とは川一つ隔てて熱海ですから、町長のリーダーシップも求められたことと思います。消

防団など地域防災組織や区毎にきめ細かに、高齢者やこども達の見守りを進めるなどボランティア活動に従事下さる方々の存在は大きく、コミュニティの連携も重要です。

かれん：伊豆湘南道路の要望活動も年3回町長と一緒に国土交通省及び財務省に対して行っています。5年前のことではありますが、台風が国道135号を襲った映像は皆さんの記憶にも残っていると思います。救急車と警察車両が高潮に吞まれ、一人の命も奪われずに済んだことは奇跡とも言われました。この時の写真を町長は幾度となく国への要望で活用されてきました。関係者皆さん衝撃を持って町長の話聞かれています。この教訓を多くの方と共有し、命を守る道路を静岡県と連携して実現しなければならないと思っています。

富田：防災コミュニティセンターの建設も大きな決断でした。防災拠点としての機能を集積させることができましたので、皆さんの安全安心に一層応えていきます。

かれん：施策の丁寧な積み重ね、これは一朝一夕にできるものではありません。

富田：行財政改革、防災力の強靱化、観光立町の復活、地域医療の安定的提供、旧湯河原中学校跡地の福祉と防災の拠点化、新型コロナウイルス感染症・物価高及び原油高への対策や支援を成し遂げてきました。

かれん：コロナ対策、物価高対策など喫緊の課題に富田町長のリーダーシップが期待されています。

小倉：私も期待しています。

富田：頑張ります。

